

地震予測研究の現状について

楠城一嘉(静岡県大)

将来の南海トラフ巨大地震や(文献 1)、2016 年に起きた熊本地震を事例として、日本の地震予測研究の現状に関する総説が、英国 Science Impact 社が出版する Impact 誌で掲載されました(図 1)。日本の地震防災への対応を念頭に置いて、地震活動の統計解析を行い、地震ハザードの不確実性を低減しようとする研究を解説しています。

Impact 誌は、世界中の 3 万 5000 人の読者に配布され、世界中の大学・研究機関・国および地域の研究資金補助組織などに読まれています。出版物は世界で最大のオンライン学術情報源 IngentaConnect (インジェンタ・コネクト: 月 150 万アクセスがあり、3 万の学術研究および産業図書館にて使用) 上で、オープンアクセスで公開されています。

1) Nanjo, K.Z., Yoshida, A. A *b* map implying the first eastern

rupture of the Nankai Trough earthquakes. *Nat Commun* 9, 1117 (2018). <https://doi.org/10.1038/s41467-018-03514-3>



図 1 記事の 1 ページ目。